九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

母親観と育児不安

溝田, めぐみ
九州大学大学院 : 博士後期課程3年

https://doi.org/10.15017/1028

出版情報：飛梅論集. 3, pp.15-30, 2003-03-28. 九州大学大学院人間環境学府発達・社会システム専攻教育学コース
バージョン：
権利関係：

九州大学大学院教育学コース院生論文集，2003，第3号，15－30頁
Bull. Education Cource, kyushu U., 2003, Vol.3, pp15－30

母親観と育児不安

溝　田　め　ぐ　み*

1．問題とアプローチ

母親の育児不安はまさに母親自身の母親観によるところが大きいであろう。母親自身がどのような母親観をもち、自分をどのように規定しているか、その規定の仕方によって育児不安は異なると思われるからである。

しかし、母親の母親観において、その「意識」と「行動」が一致しているとは限らない。母親の「意識」レベルと「行動」レベルが一致してれば、母親は安定的に育児を行うことが出来るだろうが、一致していなければ安定的に育児を行うことができないのではないだろうか。

ところで、現代社会にあっては各種の調査結果が示しているように、母親観も女性観も大きく変化してきた。母親であっても社会に出て、男性と同等に働きたいと考える女性が増えてきた。それにともない、これまで母親の役割とされてきた家事・育児についても父親の参加が求められるようになってきた。そしてそれを当然とする母親たちも増えてきた。しかしその一方で父親の意識には大きな変化がなく、各種の調査結果を見ても依然として家事・育児を母親の役割と考えている父親が多いようである。つまり今日においては、母親自身の抱く母親観と父親の抱く母親観との間に大きな齟齬が生じているのではないかと考える。そしてこうした齟齬は母親の母親観に少なからぬ影響を与えるだろう。

本研究の目的は、「意識」レベルと「行動」レベルで構成される母親観がどう育児不安に影響を及ぼしているかを見ることである。そしてここでは、母親観の「意識」レベルと「行動」レベルをそれぞれ現代的と伝統的の2つに区分した。ここでいう現代的とは、母親も自身の生き方を求めるべきだ［求めている］というものであり、伝統的とは、従来通り家事・育児に専念すべきだ［専念している］というものである。

現代的母親観と伝統的母親観を捉えるため、「意識」レベルでは、「あなたは、次のような女性の行き方のうち、どの意見に賛成しますか。一つ選んで○をつけてください。」と聞いた。また、「行動」レベルでは、「実際、今のあなたはどれに当てはまりますか。1つ選んで○をつけてください。」と聞いた。そして、「意識」レベル・「行動」レベルそれぞれに対する回答を表1のように設定した。「意識」レベルでの回答は、①から⑤にいくにしたがい現代的から伝統的になり、「行動」レベルで

*九州大学大学院博士後期課程３年

の回答は、⑥から⑩にいくにしたがい現代的から伝統的になっている。ここでは人数のバランスを考慮して「意識」レベルでは①を現代的、②～⑤を伝統的とした。また、「行動」レベルでは⑥を現代的、⑦～⑩を伝統的とした。

表1　現代的母親観と伝統的母親観の内容（意識レベル・行動レベル）

意識レベル	現代的	①結婚や出産の後も仕事を続けるのがよい
	伝統的	②結婚や出産の後、育児のときにだけ家庭に入り、育児が終わったら、また仕事をもつのがよい
		③出産したら、家庭に入るのがよい
		④結婚したら、家庭に入るのがよい
		⑤女性は、仕事をもたずに家事・育児に専念するのがよい
行動レベル	現代的	⑥結婚や出産の後も仕事を続けている
	伝統的	⑦結婚や出産の後、育児のときにだけ家庭に入り、育児が終わったら、また仕事をもっている
		⑧出産してから、家庭に入っている
		⑨結婚してから、家庭に入っている
		⑩外で働いたことがない

さらに、「意識」レベルと「行動」レベルそれぞれにおける現代的と伝統的とをクロスすることによって母親観を表2のように、4つのタイプに類型化した。いま、それぞれのタイプを仮説的に提示すると以下のようになる。

表2　母親観

		行動レベル	
		現代的	伝統的
意識レベル	現代的	Ⅰ型（147）	Ⅱ型（56）
	伝統的	Ⅲ型（84）	Ⅳ型（474）

（注）無回答・不明を除く。以下同様。

Ⅰ型　母親の「意識」は現代的な「意識」であり、かつ「行動」も現代的な「行動」のタイプ。「意識」と「行動」が一致しているため、母親は育児に対する不安が低く安定的に育児を行っていると思われる。また、従来の研究結果[1]によれば、仕事を持つ母親は専業主婦である母親よりも育児不安が低い傾向にある。Ⅰ型の「行動」は現代的な「行動」で、それはつまり「結婚や出産の後も仕事を続けている」タイプのことである。だからこれまでの研究結果からすると、この現代的な「行動」のタイプは育児不安が低いということになるだろう。「意識」と「行動」が一致し、かつ現代的な「行動」のⅠ型は育児不安が低くなる要因が二重にあるから、4タイプの母親観のなかで最も育児不安が低いだろう。

Ⅱ型　母親の「意識」は現代的な「意識」であり、「行動」は伝統的な「行動」のタイプ。「意識」

と「行動」が一致していないため、母親の不安は高くなると思われる。また、先にも述べたように従来の研究結果によれば、専業主婦である母親は仕事を持った母親よりも育児不安が高い傾向にある。II型の「行動」は伝統的な「行動」であり、これは「結婚や出産の後、育児のときにだけ家庭に入り、育児が終わったら、また仕事をもっている」、「出産してから、家庭に入っている」、「結婚してから、家庭に入っている」、「外で働いたことがない」のいずれかのタイプである。したがって現代的な「行動」のタイプよりも専業主婦が多くなると考えてもよいだろう。とすれば、この伝統的な「行動」のタイプは育児不安が高いということになる。「意識」と「行動」が不一致で、かつ専業主婦が多いこのタイプはI型とは対照的に、育児不安が高くなる要因が二重にあるから、4タイプの母親観のなかで最も育児不安が高いだろう。

III型　母親の「意識」は伝統的な「意識」であり、「行動」は現代的な「行動」のタイプ。「意識」と「行動」が一致していないため、母親の不安は高くなると思われる。ただし、先述したように、「行動」が現代的なタイプは育児不安が低くなる傾向にあるため、I型よりも不安は高いがII型ほど育児不安は高くないだろう。

IV型　母親の「意識」は伝統的であり、「行動」は伝統的な「行動」のタイプ。「意識」と「行動」が一致しているため、母親は育児に対する不安が低く安定的に育児を行っていると思われる。ただし、先述したように「行動」が伝統的なこのタイプは、育児不安が高くなる傾向にあるため、育児不安は若干高くなるだろう。

このように、母親の「意識」と「行動」が一致していれば母親の育児不安は小さく、逆に一致していなければ育児不安は大きいと考えられるが果たしてどうであろうか。また、「意識」と「行動」が一致しているI型とIV型の母親の間では「意識」・「行動」が現代的か伝統的かということで不安に違いがあるのだろうか。同様に、「意識」と「行動」が一致していないII型とIII型の母親の間では「意識」・「行動」が現代的か伝統的かということで不安に違いはあるのだろうか。

ところで普通、行動は意識によって規定されるはずである。しかし、母親の母親観における「意識」と「行動」において、一致しない場合があるのはなぜだろうか。先述したように、母親の母親観における「意識」と「行動」との間に父親の母親観が影響しているのではないかと考え、表3のように母親の母親観と父親の母親観との関連を見た。ただし、父親の母親観といっても、重要なのは実際の父親の母親に対する役割期待ではない。父親の母親に対する役割期待を母親がどのように認知しているかということが重要なのである。だから、ここでは「父親の母親観」を「あなたのご主人は、あなたにどのようにして欲しいと思っていますか。1つ選んで○をつけてください。」と、母親に聞いている。そして母親の母親観との整合性を考慮し、「結婚や出産の後も仕事を続ければいいと思っている」という回答は現代的母親観とし、「結婚や出産の後、育児のときにだけ家庭に入り、育児が終わったら、また仕事をもてばいいと思っている」、「出産したら、家庭に入るのがいいと思っている」、「結婚したら、家庭に入るのがいいと思っている」という3つの回答は伝統的母親観として分類した。

表3をみると、母親の「意識」・「行動」共に現代的なⅠ型では、父親の母親観は「現代的」が87%である。また、母親の「意識」・「行動」共に伝統的なⅣ型では、父親の母親観は「伝統的」が95%である。つまり、母親の「意識」と「行動」が一致したタイプでは父親の母親観もまた母親の「意識」・「行動」と一致しているのだ。では、母親の「意識」と「行動」が一致していないⅡ型とⅢ型はどうだろうか。Ⅱ型の父親の母親観は「伝統的」が83%である。Ⅱ型の母親は「意識」が現代的で「行動」が伝統的であるから、母親の「意識」は父親の母親観とは一致していないが、母親の「行動」は父親の母親観と「伝統的」ということで一致している。Ⅲ型の父親の母親観は「現代的」が53%である。Ⅲ型の母親は「意識」が伝統的で「行動」が現代的であるから、母親の「意識」は父親の母親観とは一致していないが、母親の「行動」は父親の母親観と「現代的」ということで一致している。Ⅱ型・Ⅲ型共に父親の母親観が一致しているのは母親の「行動」である。だから、たとえ母親の「意識」が現代的[伝統的]な「意識」であっても、父親の母親観が伝統的[現代的]であれば母親の「行動」は伝統的[現代的]になる傾向にある。母親の「意識」と「行動」が一致しない場合があるのは、実はそこに父親の母親観が介入しているからなのである。

表3 父親の母親観

	父親の母親観	
	現代的	伝統的
Ⅰ 型	103 86.6	16 13.4
Ⅱ 型	8 17.0	39 83.0
Ⅲ 型	32 53.3	28 46.7
Ⅳ 型	21 5.2	382 94.8
全 体	164 26.1	465 73.9

$p<.01$

では、父親の母親観という要因を考慮した場合に、いまいちど母親観の4タイプを仮説的に提示するとどうなるだろうか。以下に示す。

Ⅰ型　母親の母親観は「意識」・「行動」共に一致しているタイプ。また、父親の母親観は母親の母親観と一致している。さらに、先に述べたように従来の研究結果では有職者の母親の方が専業主婦の母親よりも育児不安が低い。だから母親の「行動」が現代的な「行動」であるこのタイプの母親は育児不安が低いと思われる。以上3つの要因により母親の育児不安は4タイプの母親観のうち最も低いと思われる。

Ⅱ型　母親の母親観は「意識」と「行動」が不一致なタイプ。また、父親の母親観は母親の「意識」と一致していない。さらに、母親の「行動」は伝統的な「行動」のため、従来の研究結果から、母親の育児不安は高いと思われる。以上3つの要因により母親の育児不安は4タイプの母親観のうち最も高いと思われる。

Ⅲ型　母親の母親観は「意識」と「行動」が不一致なタイプ。また、父親の母親観は母親の「意識」と一致していない。しかし、母親の「行動」は現代的な「行動」のため、従来の研究結果から、母親の育児不安は低いと思われる。以上3つの要因により母親の育児不安はやや高いと思われる。

Ⅳ型　母親の母親観は「意識」・「行動」共に一致しているタイプ。また、父親の母親観は母親の母親観と一致している。しかし、母親の「行動」は伝統的な「行動」のため、従来の研究結果から、母親の育児不安は高いと思われる。以上3つの要因により母親の育児不安はやや高いと思われる。

以下では、これら母親の母親観の4タイプと育児不安との関連を見ていく。

2．調査方法

調査対象は、福岡市内の0～3才児の保育園児をもつ母親である。保育園児の母親への調査は7保育園を介しての留置調査を実施した。調査時期は1999年10月5日～10月27日である。対象者数は462名、有効回収票388票、回収率84.0%である。

しかし、保育園児の母親は有職者が多いと思われた。そのため、3才以下の子どもをもった専業主婦の母親のデータをも採取するため、福岡市内の育児サークルに参加している母親にも同様の調査を実施した。育児サークルへは通常、保育園や幼稚園に入園前の子どもと母親が参加している。そのため、育児サークルに参加している母親を調査対象とすれば保育園と同様の3才以下の子どもを持った母親を対象とすることが出来ると考えたからである。育児サークルに参加している母親への調査は69の育児サークルの各リーダー宛にサークルの人数分の調査票を郵送し、回収は育児サークルのメンバーが記入後、メンバーそれぞれがポストに投函するという形で実施した。調査時期は1999年10月～2000年1月である。対象者数は1204名、有効回収票621票、回収率51.6%である。保育園児の母親と育児サークルに参加している母親を合わせた対象者数は1666名、有効回収票1009票、回収率60.6%である。

3．調査結果の分析

(1) 母親の属性

母親観と育児不安との関連を見る前にそれぞれの属性についてみていこう（表4)。

まず、「年齢」であるが、結論から言えば、母親観と年齢との間に有意差は見られなかった。現代的な「意識」を持った母親の方が年齢は低いのではないかと思われたが、「年齢」における母親観に有意差はみられなかった。全体で見ると30代が66%を占め、ついで、20代が31%となっている。

では「就業形態」についてはどうだろうか。全体では「有職者」が40%、「専業主婦」が60%である。母親観別に見ると、Ⅰ型・Ⅲ型は「行動」が現代的な「行動」のため、ほとんどが「有職者」となっている。Ⅱ型とⅣ型は「有職者」よりも「専業主婦」が多くなっている。しかし、Ⅱ型とⅣ型の「専業主婦」の占める割合にはかなりの違いがある。「意識」が現代的で「行動」が伝統的なⅢ型の「専業主婦」が66%なのに対し、「意識」・「行動」が共に伝統的なⅣ型の「専業主婦」が88%とかなり多くなっている。

そして、「居住年数」では「1～3年未満」にII型・IV型が多く、「3～10年未満」ではI型、そして10年以上ではIII型が多くなっていた。「行動」が現代的な「行動」である、つまり「有職者」が多いI型・III型の方がII型・IV型よりも「居住年数」は長くなっているのが分かる。

表4　母親の属性（母親自身）

	年　齢				就業形態		居住年数		
	10-20代	30-34歳	35-39歳	40歳以上	有職者	専業主婦	1-3年未満	3-10年未満	10年以上
I　型	42 28.6	66 44.9	33 22.4	6 4.1	143 99.3	1 0.7	44 29.9	78 53.1	25 17.0
II　型	16 28.6	27 48.2	11 19.6	2 3.6	19 34.5	36 65.5	26 46.4	26 46.4	4 7.1
III　型	28 33.3	35 41.7	18 21.4	3 3.6	82 100.0	—	25 29.8	37 44.0	22 26.2
IV　型	151 32.1	213 45.2	95 20.2	12 2.5	56 12.0	412 88.0	182 38.6	235 49.8	55 11.7
全　体	237 31.3	341 45.0	157 20.7	23 3.0	300 40.1	449 59.9	277 36.5	376 49.5	106 14.0

$p<.01$

（注）—の表示は度数が0であることを示す。以下同様。

では子どもに関する母親の属性はどうであろうか（表5）。「子どもの人数」は全体で見ると、「1人」という回答が最も多く、54%であった。ついで「2人」が35%、そして「3人以上」が10%であった。

子どもの人数と母親観による違いはみられなかったが、「第一子の年齢」では違いがみられた。第一子が「3才以下」の場合にはII型・IV型が多く、「4歳以上」になるとI型・III型が多くなっていた。

つづいて、「夫婦関係」について見ていこう（表6）。「主な育児担当者」は、いずれの母親観も「母親」という回答が最も多くなっていた。ついで「夫婦で分担」が多い。その他の、「父親」、「祖父母」という回答は全体で2%しかいなかった。「母親」という回答についてみると、「行動」が伝統的な「行動」のタイプでは、II型が82%、IV型が95%であるのに対し、現代的な「行動」のタイプではI型が60%、III型が69%であった。つまり、行動が伝統的な「行動」のタイプの方が、現代的な「行動」のタイプよりも「主な育児担当者」は「母親」である場合が多い。そして「夫婦で分担」では、「母親」とは逆にI型・III型が多く、II型・IV型が少ない。これはやはり母親の就業形態とそれを規定する父親の母親観が影響しているものと思われる。

表5　母親の属性（子ども）

	子どもの人数			第一子の年齢	
	1人	2人	3人以上	3歳以下	4歳以上
Ⅰ型	74 50.3	56 38.1	17 11.6	84 57.1	63 42.9
Ⅱ型	33 58.9	17 30.4	6 10.7	38 67.9	18 32.1
Ⅲ型	44 52.4	29 34.5	11 13.1	45 53.6	39 46.4
Ⅳ型	262 55.5	168 35.2	44 9.3	331 69.8	143 30.2
全体	413 54.4	268 35.3	78 10.3	498 65.4	263 34.6

$p<.01$

「主な育児担当者」での「父親」はほとんどいないから、父親の育児参加は「夫婦分担」という形でみてみる。そうすると、父親の育児参加にはかなりの違いがあるのがわかる。しかし、Ⅱ型・Ⅳ型の父親の育児参加が少ないにもかかわらず、「父親の育児参加に対する母親の満足度」では育児参加が多いⅠ型・Ⅲ型で「高い」が若干多いものの、有意差はみられなかった。Ⅰ型・Ⅲ型で満足度が「高い」が多いのは、母親の就業形態によって母親が父親に期待する育児参加の程度に違いがあるからではないだろうか。つまり、専業主婦の母親は、父親にあまり育児参加を期待していないということである。

では、父親との「コミュニケーション頻度」はどうだろうか。ここでのコミュニケーションとは、母親が父親と子どものことについてコミュニケーションするという意味である。「コミュニケーション頻度」は有意差が見られた。Ⅳ型の「高い」が最も多く、ついでⅢ型・Ⅰ型が同じくらい、そしてⅡ型が最も少なかった。最も「コミュニケーション頻度」が高いのはⅣ型であったが、これは、表4の「就業形態」で「専業主婦」が多く、「居住年数」の少なさから見て、母親が父親以外に子どもについて相談できる人が少ないのではないかと考えられる一方で、夫婦で相談し合って育児をしているという、夫婦関係の良さの表れとも考えられるだろう。一方、最も「コミュニケーション頻度」が低いⅡ型はⅠ型と「就業形態」・「居住年数」においてほぼ同傾向を示している。それにも関わらず、「コミュニケーション頻度」がⅠ型より低いということは、Ⅱ型の夫婦関係がよくないのではないかと考えられる。そして、やはり表3でみたように、「父親の母親観」がⅣ型は母親と一致しているがⅡ型は一致していないのである。

「育児理解度」も有意差がみられた。ここでの育児理解とは、父親が育児を大変な仕事だと理解しているというという意味である。「高い」で最も多いのはⅠ型である。つづいてⅢ型・Ⅳ型が同じくらいで、最も低いのがⅡ型である。したがって、Ⅱ型は父親とのコミュニケーションも低く父親の育児理解度も低いということになる。

表6　夫婦関係

	主な育児担当者				父親の育児参加に対する母親の満足度		コミュニケーション頻度		父親の育児理解度	
	母親	夫婦で分担	父親	祖父母	高い	低い	高い	低い	高い	低い
Ⅰ　型	88 59.8	52 35.4	1 0.7	6 4.1	38 27.5	100 72.5	87 62.1	53 37.9	67 48.2	72 51.8
Ⅱ　型	46 82.1	8 14.3	—	2 3.6	8 14.3	48 85.7	32 57.1	24 42.9	10 17.9	46 82.1
Ⅲ　型	58 69.0	25 29.8	—	1 1.2	16 21.1	60 78.9	50 64.9	27 35.1	26 34.2	50 65.8
Ⅳ　型	448 95.0	21 4.4	2 0.4	1 1.2	87 18.4	387 81.6	338 71.3	136 28.7	153 32.3	321 67.7
全　体	640 84.3	106 14.0	3 0.4	10 1.3	149 20.0	595 80.0	507 67.9	240 32.1	256 34.4	489 65.6

$p<.1$　　$p<.05$　　$p<.01$

(2) 母親観と育児不安

先述のように、本研究では母親観と育児不安について見ていくわけであるが、育児不安と一口にいってもその内容は一様ではないだろう。そこでここでは、住田（2001）の育児不安の4タイプを用いて分析を行っていくこととする[(2)]。育児不安の4タイプとは、「育児についての不快感情」、「成長・発達についての不安」、「育児能力に対する不安」、「育児負担感・束縛感による不安」である。これら育児不安の4タイプそれぞれを構成する質問項目は表7に示すとおりである。そして、育児不安の4タイプを概略すると次のようになる。

育児についての不快感情：母親は、コミュニケーションできない乳幼児に対して心身の状態を推し量り、絶えず注意を払っていなければならない。だが子どもは母親のそうした気苦労や心労に何ら頓着することなく勝手気ままに「行動」する。だから母親は子どもを疎ましく不快に感じるのである。

成長・発達についての不安：育児は乳幼児の身体的成長や精神的発達を目的とするが、しかしその成長や発達の明確な基準はない。だから母親は子どもが順調に育っているか否かを確認することができず、ために不安に襲われるのである。

育児能力に対する不安：育児は子どもの基礎的部分を形作る行為であるから、育児の仕方によっては子どもの将来を方向付け、決定付けてしまうことになる。だからそうした育児行為の重圧に気圧されれば、母親は自身の育児能力に不安を感じ、育児行為そのものに恐れを感じるようになる。

育児負担感・束縛感よる不安：今日においては、既婚女性であっても育児に埋没することなく、自身の積極的な生き方や自立を求めて然るべきという社会的風潮がある。だが育児は日常的な、そして反復的な継続行為である。そのため母親は現実と自己との間に齟齬を感じ自己疎隔的な状況に陥っていくのである。

表7　育児不安の4タイプ

育児についての不快感情	子どもがわずらわしくてイライラする
	子どものことを考えるのが面倒になる
	子どもが自分の言うことを聞かないのでイライラする
	子どもが汚したり散らかしたりするので嫌になる
	自分の子どもでも可愛くないと感じることがある
子どもの成長・発達についての不安	自分が思っているように子どもが成長しないので成長が遅れているのではないかと思う
	子どもが病気にかかったり事故にあわないかと心配することがある
	他の子どもと比べて自分の子どもの発育が遅れているのではないかと思う
	育児書や育児雑誌の内容と比べて自分の子どもが遅れているのではないかと思う
母親自身の育児能力に関する不安	育児のことでどうしたらよいか分からないことがある
	他のお母さんの育て方と比べて自分の育て方でよいのか不安になる
	他の子どもと比べて自分の子どもの発育が遅れているのではないかと思う
	育児書や育児雑誌の内容と比べて自分の子どもが遅れているのではないかと思う
育児負担感・拘束感による不安	子どもに時間をとられて自分のやりたいことができずイライラする
	友人や知人が充実した生活をしているようなので焦りを感じる
	テレビや雑誌本などで見る女性の姿と自分とを比べて遅れていると感じる
	毎日育児の繰り返しばかりで社会とのきずなが切れてしまうように感じる

また、育児不安が高いということは明らかによくないことである。しかし、だからといって育児不安が低ければそれだけでよいというわけではない。なぜなら子どもへの無関心から育児不安が低いという場合も考えられるからだ。そこで母親のタイプと育児満足についても見ていく。母親の育児不安と育児満足といういわば母親の両側面を見ていくことによって、より母親の現実の姿を捉えることができると考える。育児満足についても住田（2001）の測定法を用いる。育児満足を構成する質問項目を表8に示す。

表8　育児満足

育　児　満　足	子どもを育てるのは楽しいと感じる
	子どもを育てることによって自分も成長しているのだと感じる
	子どもを育てるのは有意義ですばらしいことだと思う
	余り病気もしないで、子どもは元気に育っていると感じる
	自分の子どもは、思うようにうまく育っていると感じる

では最初に、育児についての不快感情との関連を見ていこう。表9「育児についての不快感情」を見ると、「高い」の比率はII型とIV型で高く、I型とIII型で低い。II型とIV型に共通するのは「行動」が伝統的な「行動」ということである。このII型とIV型は専業主婦が多く居住年数も短い、そして第一子の年齢が低く、父親の育児参加度が低いタイプである。専業主婦であり、なおかつ子どもの年齢が低く、父親の育児参加度が低ければ必然的に子どもと過ごす時間が長くなるだろうし、居住年数が短い分、近隣関係も少ないと考えられる。反対に、I型とIII型は有職者が多く居住年数も長い、そして第一子の年齢も高く父親の育児参加度が高いタイプである。II型とIV型は子どもと

の高い密着度と育児行為の閉塞感から「育児についての不快感情」が高くなっていることが分かる。しかし先にもみたように、II型は父親との母親観が不一致であり、IV型は一致している。だからII型の母親の不安が高いのは、子どもとの高い密着度と育児行為の閉塞感と共に、夫婦関係を源泉としていると思われる。II型・IV型と比較して不安の低いI型・III型であるが、両者を比較すると若干ではあるが、III型の方が不安は高い。これもII型と同様に父親の母親観との不一致が関係していると思われる。

また、この不安を構成している5項目別に見るとそのうち4項目について有意差がみられた。そして、有意差がみられた項目についても同様の結果が得られた。

表9　育児についての不快感情

	育児についての不快感情		子どもがわずらわしくてイライラする		子どものことを考えるのが面倒になる		子どもが自分の言うことを聞かないのでイライラする		子どもが汚したり散らかしたりするので嫌になる		自分の子どもでも可愛くないと感じることがある	
	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い
I　型	68 46.3	79 53.7	83 56.5	64 43.5	29 19.7	118 80.3	108 73.5	39 26.5	75 51.0	72 49.0	23 15.6	124 84.4
II　型	36 65.5	19 34.5	46 83.6	9 16.4	16 28.6	40 71.4	48 87.3	7 12.7	36 64.3	20 35.7	12 21.4	44 78.6
III　型	40 48.2	43 51.8	59 70.2	25 29.8	12 14.5	71 85.5	68 81.9	15 18.1	50 60.2	33 39.8	5 6.0	78 94.0
IV　型	292 62.1	178 37.9	337 71.2	136 28.8	121 25.6	352 74.4	397 83.8	77 16.2	331 70.1	141 29.9	93 19.7	379 80.3
全　体	436 57.7	319 42.3	525 69.2	234 30.8	178 23.5	581 76.5	621 81.8	138 18.2	492 64.9	266 35.1	133 17.5	625 82.5
	p<.01		p<.01		p<.1		p<.05		p<.01		p<.05	

表10「子どもの成長・発達に関する不安」については、「育児についての不快感情」とまったく逆で、I型・III型の不安が高く、II型・IV型の不安が低かった。I型・III型には有職者である母親が多い。子どもが病気になったり事故にあったとき、仕事をもってるからこそ高まる不安だということではないだろうか。しかし、有意差はみられなかった。

表11「母親自身の育児能力に関する不安」はどうだろうか。ここでは、「育児のことでどうしたらよいか分からないことがある」についてだけ有意差がみられた。この項目は、自分自身の育児能力に対する戸惑いや自信喪失ということである。「高い」が多かったのは「育児についての不快感情」と同様にII型とIV型であった。つまり、「行動」が伝統的な「行動」のタイプである。これもやはり、子どもとの密着度の高さ、そして育児行為の閉塞感から高くなると思われる。そして、この不安についても「育児についての不快感情」と同様に、IV型よりII型、I型よりIII型の不安が高くなっていた。ここにも父親の母親観と母親の意識との不一致という夫婦関係が影響しているのではないだろうか。

表10　子どもの成長・発達についての不安

	子どもの成長・発達に関する不安		自分が思っているように子どもが成長しないので成長が遅れているのではないかと思う		子どもが病気にかかったり事故にあわないかと心配することがある		他の子どもと比べて自分の子どもの発育が遅れているのではないかと思う		育児書や育児雑誌の内容と比べて自分の子どもが遅れているのではないかと思う	
	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い
Ⅰ　型	63	84	20	127	126	21	24	123	12	135
	42.9	57.1	13.6	86.4	85.7	14.3	16.3	83.7	8.2	91.8
Ⅱ　型	19	37	9	47	40	16	8	48	5	51
	33.9	66.1	16.1	83.9	71.4	28.6	14.3	85.7	8.9	91.1
Ⅲ　型	37	46	12	71	67	17	15	68	12	71
	44.6	55.4	14.5	85.5	79.8	20.2	18.1	81.9	14.5	85.5
Ⅳ　型	164	310	75	399	373	101	83	391	61	413
	34.6	65.4	15.8	84.2	78.7	21.3	17.5	82.5	12.9	87.1
全　体	283	477	116	644	606	155	130	630	90	670
	37.2	62.8	15.3	84.7	79.6	20.4	17.1	82.9	11.8	88.2

表11　母親自身の育児能力に関する不安

	母親自身の育児能力に関する不安		育児のことでどうしたらよいか分からないことがある		他のお母さんの育て方と比べて自分の育て方でよいのか不安になる		テレビや雑誌・本を見て自分の育て方でよいのか不安になる		子どもをよく育てなければならないという気持ちを感じる	
	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い
Ⅰ　型	56	91	69	78	63	84	43	104	98	49
	38.1	61.9	46.9	53.1	42.9	57.1	29.3	70.7	66.7	33.3
Ⅱ　型	25	31	34	22	30	26	19	37	34	22
	44.6	55.4	60.7	39.3	53.6	46.4	33.9	66.1	60.7	39.3
Ⅲ　型	35	48	43	40	36	47	27	56	57	27
	42.2	57.8	51.8	48.2	43.4	56.6	32.5	67.5	67.9	32.1
Ⅳ　型	234	240	282	192	252	222	189	285	343	131
	49.4	50.6	59.5	40.5	53.2	46.8	39.9	60.1	72.4	27.6
全　体	350	410	428	332	381	379	278	482	532	229
	46.1	53.9	56.3	43.7	50.1	49.9	36.6	63.4	69.9	30.1
	$p<.1$		$p<.05$		$p<.1$		$p<.1$			

表12「育児負担感・拘束感による不安」はどうだろうか。「高い」に多いのはこれまでと同様に、Ⅱ型とⅣ型であった。ということは、やはり子どもとの高い密着度、そして育児行為の閉塞感からこの不安が高くなることが分かる。そしてⅡ型とⅣ型でより高いのはⅡ型である。ここにも父親の母親観と母親の意識との不一致という夫婦関係が影響しているのではないだろうか。そして、Ⅱ型・Ⅳ型と比較すれば低いながらもⅠ型・Ⅲ型でより高いのはⅠである。これまでⅠ型はただ1つを除けばどのタイプの育児不安においても最も不安が低かった。しかしなぜ、「育児負担感・拘束感による不安」だけⅢ型よりも不安が高いのだろうか。Ⅰ型とⅢ型は「行動」が現代的な「行動」という点で一致している。しかしながら、Ⅲ型は「意識」が伝統的な「意識」であるのに対しⅠ型

は現代的な「意識」をもっている。つまり、仕事への意識がⅠ型とⅢ型とではまったく異なるのである。だからⅠ型の母親は育児によって自分自身のキャリアを多少なりとも阻まれていると感じているのではないだろうか。

そして、育児負担感・拘束感による不安を構成している4項目のうち、有意差がみられたのは3項目についてだった。いずれも「高い」に多いのがⅡ型とⅣ型という一貫した傾向が見られた。そして、Ⅰ型とⅢ型においても一貫してⅠ型の方が不安が高かった。

表13　育児負担感・拘束感による不安

	育児負担感・拘束感による不安		子どもに時間をとられて自分のやりたいことができずイライラする		友人や知人が充実した生活をしているようなので焦りを感じる		テレビや雑誌本などで見る女性の姿と自分とを比べて遅れていると感じる		毎日育児の繰り返しばかりで社会とのきずなが切れてしまうように感じる	
	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い
Ⅰ　型	33 22.4	114 77.6	87 59.2	60 40.8	43 29.3	104 70.7	40 27.2	107 72.8	18 12.2	129 87.8
Ⅱ　型	28 50.0	28 50.0	44 78.6	12 21.4	24 42.9	32 57.1	26 46.4	30 53.6	30 53.6	26 46.4
Ⅲ　型	11 13.3	72 86.7	44 52.4	40 47.6	22 26.5	61 73.5	20 24.1	63 75.9	9 10.8	74 89.2
Ⅳ　型	223 47.2	249 52.8	338 71.3	136 28.7	171 36.2	301 63.8	220 46.4	254 53.6	248 52.3	226 47.7
全　体	295 38.9	463 61.1	513 67.4	248 32.6	260 34.3	498 65.7	306 40.3	454 59.7	305 40.1	455 59.9
	p<.01		p<.01		p<.1		p<.01		p<.01	

これまで、母親観を4タイプに分類し育児不安との関連を見てきた。そして母親観と4タイプの育児不安それぞれとの関連を見た結果、有意差がみられたのは「育児についての不快感情」、「母親自身の育児能力に関する不安」、「育児負担感・拘束感による不安」の3タイプの育児不安だった。関連が見られた3タイプの育児不安についてはほぼ同一の原因が見出された。それは、「行動」が伝統的な「行動」の母親、つまり専業主婦の母親は子どもとの密着度の高さ、育児行為の閉塞感からこれら3タイプの育児不安が高くなっていた。そして、父親の母親観と母親の「意識」が一致しない場合には不安がより高くなるのである。これは、「行動」が現代的な「行動」の母親の場合にも言えた。

これまで母親のタイプと育児不安との関係をみてきたが、続いて母親のタイプと育児満足について見ていく。

(3) 母親のタイプと育児満足

表14「育児満足」において関連が見られたのは「子どもを育てるのは楽しいと感じる」、「あまり病気もしないで子どもは元気に育っていると感じる」の2項目であった。前者の「子どもを育てるのは楽しいと感じる」で「高い」が多かったのはⅠ型とⅣ型であった。子どもを育てるのは楽しい

と感じるというのは育児に対する充実感や快感である。Ⅰ型・Ⅳ型に共通するのは母親の母親観を構成する「意識」と「行動」が一致しているということである。つまり母親は自分の思い通りに現在の生活を送れているということだ。そうであれば育児に対してこのような充実感や快感を得ているのは当然であろう。そして反対にⅡ型とⅢ型は母親の母親観を構成する「意識」と「行動」が一致していないタイプなのである。「意識」と「行動」が一致しているⅠ型とⅣ型の満足度が高く、逆に一致していないⅡ型とⅢ型のこの満足度が低いということから、子どもを育てるのは楽しいと感じるためには母親の意識と行動が一致していることが重要ということが分かる。それと共に、Ⅰ型・Ⅳ型は母親の母親観と父親の母親観が一致しており、Ⅱ型・Ⅲ型は一致していないタイプである。「子どもを育てるのが楽しいと感じる」には父親との夫婦関係が重要だということが言えるようだ。

また、「あまり病気もしないで子どもは元気に育っていると感じる」はどうだろうか。これも同様に「意識」と「行動」との一致が重要なのだろうか。実はこれについてはこれまでと全く逆の結果であった。これまで見てきた育児不安の各タイプにおいていずれも不安の高かったⅡ型とⅣ型の満足度が高いのである。Ⅱ型とⅣ型との共通点は行動が伝統的なことである。子どもとの密着度が高く、育児に閉塞感を感じながらも同じ母親が一方では子どもの成長・発達に関して安心感や満足感、そして有能感を感じているのだ。これは一見矛盾するようにも思われる。しかし、有意差はなかったものの、表8「子ども成長・発達に関する不安」とこれが同様の結果であることを考えるとこれも理解できるのである。つまり「行動」が現代的な「行動」の母親が、働いているが為に、伝統的な「行動」の母親よりも子どもの成長・発達を気にしているかということではないだろうか。母親であれば子どもの健康は第一に重要なことであろうが、有職者である母親が有職者でいられるのは子どもが健康であるという前提の上に成り立っているということを考えれば、Ⅰ型・Ⅲ型の母親がこの項目に対してナーバスになるのも理解できるのではないだろうか。

表14　育児満足

	育児満足		子どもを育てるのは楽しいと感じる		子どもを育てることによって自分も成長していると感じる		子どもを育てるのは有意義ですばらしいことだと思う		あまり病気もしないで子どもは元気に育っていると感じる		自分の子どもは思うようにうまく育っていると感じる	
	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い	高い	低い
Ⅰ　型	83	63	109	38	102	44	89	58	85	62	54	93
	56.8	43.2	74.1	25.9	69.9	30.1	60.5	39.5	57.8	42.2	36.7	63.3
Ⅱ　型	24	30	31	24	29	26	23	32	38	16	12	43
	44.4	55.6	56.4	43.6	52.7	47.3	41.8	58.2	70.4	29.6	21.8	78.2
Ⅲ　型	41	42	58	26	51	33	41	43	51	32	25	58
	49.4	50.6	69.0	31.0	60.7	39.3	48.8	51.2	61.4	38.6	30.1	69.9
Ⅳ　型	271	202	349	125	279	195	268	205	342	132	132	342
	57.3	42.7	73.6	26.4	58.9	41.1	56.7	43.3	72.2	27.8	27.8	72.2
全　体	419	337	547	213	461	298	421	338	516	242	223	536
	55.4	44.6	72.0	28.0	60.7	39.3	55.5	44.5	68.1	31.9	29.4	70.6
			p<.05		p<.1		p<.1		p<.01			

4．要約と結論

本研究では、乳幼児をもつ母親を対象に調査を行い、母親の抱く母親観を「意識」レベルと「行動」レベルに分け、それをクロスすることによって母親観を4タイプに分け分析を行った。各タイプの結論は以下のようであった。

Ⅰ型は「意識」が現代的な「意識」であり、「行動」も現代的な「行動」のタイプである。また、父親の母親観と母親の「意識」が一致している。このタイプは有職者が多く、居住年数は3～10年未満と比較的居住年数が長いことから、ある程度のネットワークを形成していると思われる。子どもの数は1人が最も多く、第一子の年齢は4歳以上が多い。主な育児担当者では、4タイプ中、最も父親の育児参加が見られた。父親の育児参加に対する満足度も高く、コミュニケーション頻度・育児理解度が共に高いことから夫婦関係もよいと思われる。こうしたⅠ型は、「育児についての不快感情」、「母親自身の育児能力に関する不安」、において最も不安が低かった。しかしながら、「育児負担感・拘束感による不安」ではⅠ型・Ⅳ型よりも不安が低いものの、Ⅲ型よりも不安が高かった。これは、「意識」・「行動」共に現代的であるⅠ型は最もキャリア志向が強く、自分自身のキャリアと育児との間で揺れている結果ではないだろうか。だが、育児満足も高いことから最も安定した育児を行っていると言えよう。

Ⅱ型は「意識」が現代的な「意識」であり、「行動」は伝統的な「行動」のタイプである。そして、父親の母親観と母親の「意識」は一致していない。このタイプは専業主婦が過半数を超え、居住年数は1～3年未満が多いことから、ネットワークは広くないと思われる。子どもの人数は1人が最も多く、第一子の年齢は3歳以下が過半数を超えている。主な育児担当者は母親で父親の育児参加は少ないが、Ⅳ型よりは多い。しかしながら、父親の育児参加に対する満足度はⅣ型よりも低い。さらに、父親とのコミュニケーション頻度と育児理解度は4タイプ中最も低いことから夫婦仲はあまりよくないと言えよう。こうしたⅡ型は子どもとの密着度が高く、育児行為の閉塞感、そして夫婦関係の悪さから育児不安が高く、育児満足度も低い。4タイプ中最も不安定な育児を行っているタイプである。

Ⅲ型は「意識」が伝統的な「意識」であり、「行動」は現代的な「行動」のタイプである。そして、父親の母親観と母親の「意識」は一致していない。このタイプは全て有職者であり、居住年数は10年以上ということから、ある程度のネットワークを形成していると思われる。子どもの人数は1人が最も多く、第一子の年齢は4歳以上が過半数を超えている。主な育児担当者は母親であるが父親の育児参加はⅠ型についで多い。そして、父親の育児参加に対する満足度もⅠ型についで高い。父親とのコミュニケーション頻度と育児理解度は高い方である。ある程度のネットワークを持ち、子どもも4歳以上が多いこのタイプは子どもとの過度な密着に陥るということも少なく、育児行為の閉塞感も感じにくいことから育児不安は低い。しかしながら、父親との母親観の不一致ということからⅠ型ほど夫婦関係はよくなく、Ⅰ型よりは育児不安が高く、育児満足度もそれほど高くはな

い。しかしながらもともとの「意識」が伝統的な「意識」であるから、Ⅰ型のように育児によって自身のキャリアを阻まれているといった焦りはない。

Ⅳ型は「意識」が伝統的な「意識」であり、「行動」も伝統的な「行動」のタイプである。そして、父親の母親観と母親の「意識」は一致している。このタイプは専業主婦がほとんどで、居住年数は1～3年未満が多ことから、ネットワークは広くないと考えられる。子どもの人数は1人が最も多く、第一子の年齢は3歳以下が多い。主な育児担当者は母親で、父親の育児参加は4タイプ中最も少ないが、父親の育児参加に対する満足度はⅡ型よりも高い。さらに、父親とのコミュニケーション頻度は最も高く、育児理解度も高い。このタイプは子どもとの密着度が高く育児行為の閉塞感から育児不安が高い。しかしながら、育児満足度は高い。

育児不安は、母親の「意識」と「行動」が一致しているか否かということよりも、母親の「行動」レベルの影響が大きいことが分かった。母親の「行動」が伝統的な「行動」のとき、母親は子どもとの密着度の高さや育児行為の閉塞感から育児不安は高くなる。そして、現代的な「行動」のとき、母親のネットワークは広がり育児不安は低くなる。これらは従来の研究結果と一致する。

しかしながら、母親の「意識」レベルと「行動」レベルが一致していないとき、そこには父親の母親観が影響していた。つまり、母親の「意識」と「行動」が一致していないとき、父親の母親観は母親の「意識」ではなく、いつも母親の「行動」と一致しているのだ。母親の「意識」と父親の母親観の不一致からくるフラストレーションのため、不安が高くなる。だから、同じ現代的な「行動」の母親同士でも、母親の「意識」と父親の母親観が一致していない方が育児不安は高いのである。これは、伝統的な「行動」の母親同士でも同様である。

そして、育児満足については育児不安とは反対に、母親の「意識」と「行動」が一致しているということが重要であるということが分かった。母親の「意識」と「行動」の一致は、母親の安定的な母親観につながるということと共に、父親の母親観との一致をも意味するということが関係していると思われる。

〈注〉

（1）牧野カツコ　1985,「乳幼児をもつ母親の育児不安－父親の生活および意識との関連－」『家庭教育研究所』No.6, 22頁。

（2）住田正樹　2001,『地域社会と教育』3-20頁九州大学出版会，243-271頁。

The View of Motherhood and Mothers' Child-care-Anxiety

MIZOTA Megumi

The purpose of this paper is to make it clear the relationship the view of motherhood between and mothers' child-care-anxiety.

Mothers'child-care-anxiety will take an influence in the view of motherhood. And, the view of motherhood is composed of consciousness and behavior. But, if mothers'consciousness and behavior do not correspond, mothers'child-care-anxiety may increase.

I classified them of the view of motherhood in modern type and traditional type.

Ⅰ : The type that consciousness and behavior are modern.

Ⅱ : The type that consciousness is modern and behavior is traditional.

Ⅲ : The type that consciousness behavior is and modern is traditional.

Ⅳ : The type that consciousness and behavior are traditional.

I analyzed relation between these four types and mothers'child-care-anxiety. The following facts were explained from the result of the investigation. Mothers'child-care-anxiety takes an influence from consciousness than behavior. In other words, mothers'child-care-anxiety increases when behavior is traditional.